カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

教皇フランシスコ 2021年12月28日付
高見大司教の退任願いを受理 中村司教を長崎大司教に任命

着座式は2月23日、引退に伴う感謝ミサは3月21日

教皇フランシスコは昨年12月28日（火）ローマ時間正午（日本時間同日20時）、ヨセフ高見三明大司教からの長崎大司教（教区長）退任願いを受理するとともに、ペトロ中村倫明補佐司教を長崎大司教に任命すると発表した。これを受け、高見大司教は「長崎教区の信徒、男女修道者、司祭の皆様へ 重大なお知らせ」とし、各小教区や教区ホームページなどを通して新しい大司教の任命と着座式などについて詳細を伝えた。翌29日は「長崎大司教の交代にあたってのごあいさつ」を公表。18年にわたって私たちを導いてこられた高見大司教への感謝と、新たに中村被選大司教をいただいた喜びのうちに、通達文を紹介する。新大司教の着座式は2月23日（水）10時30分から浦上司教座聖堂で行われ、式の様子はライブ配信される。また、高見大司教の引退に伴う感謝ミサは3月21日（月）10時30分から同聖堂で予定されている。

▲中村倫明補佐司教叙階式の後、記念撮影に応じる高見大司教と中村司教
＝2019年9月16日浦上司教座聖堂前＝

【2021年12月28日付】重大なお知らせ ペトロ中村倫明補佐司教の長崎大司教任命および着座式等について

主のご降誕のお慶びを申し上げます。

この喜ばしい降誕節に、フランシスコ教皇様は、中村倫明補佐司教様を長崎大司教に任命され、今日28日、ローマ時間正午（日本時間同日午後8時）に発表なさいました。この日が中村倫明長崎大司教任命の日となります。

なお、着座式は、2022（令和4）年2月23日午前10時30分より浦上司教座聖堂においてミサの中で行われます。

12月28日以降の中村司教様とわたしの役職についてお知らせいたします。

中村倫明補佐司教様は、12月28日の任命から着座式までは「被選大司教」です。着座式をもって正式に長崎大司教となります。

わたしは、フランシスコ教皇様により、長崎大司教（教区長）の退任願いを受理されて、新大司教の着座式まで「使徒座管理者」（Administrator apostolicus）の任命を受け、実質上これまでのような長崎大司教区の責任を委ねられました。そして着座式後に引退し、「名誉大司教 Archiepiscopus emeritus」となります。そのため、2月23日まで大司教館に留まり、翌24日以降に異動します。また、新大司教の任命後、司教協議会会長および関係司教委員会と部門等の責任・担当を退き、着座式までは常任司教委員会と司教総会には陪席をさせていただくことになります。

なお、今月29日から着座式直前まで、ミサ奉献文の司教の名前は「わたしたちの司教ヨセフ高見三明、被選大司教ペトロ中村倫明」と呼びます。（福音宣教省）

	中村倫明補佐司教	高見三明大司教
2021年12月28日～	被選大司教	使徒座管理者
2022年2月23日～	長崎大司教	名誉大司教

皆さん、中村倫明被選大司教様のご健康とご活躍、そして長崎の教会共同体の立て直しと発展の上に聖霊の導きと主の祝福を、マリア様のとりなしによって祈りましょう。また、わたしのためにも祈ってくだされば大変ありがたいです。

カトリック長崎大司教区
使徒座管理者 高見三明大司教

【2021年12月29日付】カトリック長崎大司教区 司祭、助祭、修道者、信徒の皆様 長崎大司教の交代にあたってのごあいさつ

すでにお知らせいたしましたように、フランシスコ教皇様は、昨日（28日）20時に、中村倫明補佐司教様を次期長崎大司教に任命なさいました。長崎の教会のみならず、日本の教会にとっても喜ばしい限りです。神様のお計らいと教皇様のご配慮を感謝したいと思います。

わたしは、教区の皆様方のお祈り、ご支援、ご協力、ご理解をいただきながら、司教として19年余、大司教として18年間務めさせていただきました。皆様お一人おひとりに心から感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。しかしまた、わたしの力不足と至らなさゆえに、皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。まことに申し訳ございませんでした。

中村司教様が被選大司教になられたのと同時に、わたし自身は、「大司教」という肩書は残りますが、「長崎大司教」を退き、使徒座管理者となりました。教皇様から直接、長崎大司教区の管理者として任命されたということです。つまり、中村被選大司教様の着座式までは、実質的にはこれまでのように長崎大司教区の責任を委ねられております。今、しばらく、皆様方とともに歩ませていただきたいと思いますので、ご辛抱の上、何卒よろしくお願いいたします。

長崎大司教区 使徒座管理者
ヨセフ　高見三明

先般のお知らせと高見三明大司教様からのごあいさつにありますように、このたび、わたくし長崎教区補佐司教中村倫明は、フランシスコ教皇様より長崎大司教区大司教の任命をいただき、拝受いたしました。相応しくないことはわたくし自身が一番認識しておりますし、前任の高見三明大司教様をはじめ歴代の大司教様方のように振る舞うことはできないとの自覚もあります。それでも、神さまはともにいてくださり、そして、皆さま方も忍耐しながらもともにいてくださることを信じています。神さまと皆さま方からのゆるしをいただきながらしか、今回の役職も続けていくことはできません。

これまでの皆さま方のお祈りとご親交を深く感謝申し上げますとともに、今後なお一層のお祈りと、お恵みを分かち合いながらのともなる歩みをよろしくお願いいたします。

長崎大司教区 被選大司教
ペトロ　中村倫明

着座式と引退に伴う感謝ミサへの参加については、新型コロナウイルスの感染状況を見て検討した上で、あらためて各小教区と教区ホームページなどを通してお伝えいたします。

二十六聖人殉教祭「中止」

今年の日本二十六聖人殉教祭は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、2月5日（記念日当日ミサ）・6日（教区主催のミサ）とも中止となりました。記念日を心にとめ、それぞれの場所でお祈りください。

《ご案内》青年のための黙想会

教区青少年委員長　川端 志範

長崎教区の青年の皆様、このたび2年ぶりに教区青年のための黙想会を開催することになりました。

新型コロナの影響により、自粛を余儀なくされ、活動や集会もままならず、つながることに飢えた時期が、どの青年会にもありました。長崎教区青少年委員会としても、青年たちの動向は小教区にお任せするほかなく、力不足を痛感しましたし、その間、小教区の神父様方、信徒の皆様には、困難な状況の中でも、青年たちのつながりのため、お力を注いでくださったことに本当に感謝しております。

いまだ社会が安心できる状況とは言えませんが、青年たちと新しい環境の中でも歩みを続けていくため、今回この黙想会の開催を決定しました。テーマは、教皇様が一昨年2020年12月27日聖家族の祝日に定められ、年間のテーマとなっている「『愛の喜び』家庭年」です。人とのつながりを考えさせられたこの2年間の歩みを、最も身近なつながりである家庭に触れながら、見つめ直すきっかけになればうれしく思います。なお、オンラインでの参加も検討しております。

たくさんの青年たちが参加し、互いに顔を合わせ、交わる喜びを感じながら、温かい神様のみ心に触れてくださる黙想会になるように、願いのうちに皆様のご参加をお待ちしております。

長崎教区 青年のための黙想会
日時　3月6日（日）午前10時30分～午後4時
※受付9時30分
場所　長崎大司教館（長崎市橋口町）

※参加申し込み・問い合わせは、青少年委員会の各地区担当司祭または大崎教会（TEL 095－847－6188）までご連絡ください。

ほしかげ

光には春の兆しが感じられるものの一年で一番寒い季節、健康のためロザリオを繰りながら冬の野道を散歩する。厳しい寒さの中でも山茶花や水仙は凛と咲いている▲後ろから通りかかったロードバイクの方から「この辺はカトリック信者の多い所ですか」と声をかけられる。私の手元を見たようだ。「それほど多くはないですが、山間のここら辺りは、浦上と同じようにキリシタン時代に密かに信仰を守り伝えていた所ですよ」と答える▲新型コロナウイルスの影響を受け始めて2年。この間、親しく集まって交流することができない苦しみを味わい、普通の生活がありがたいものだったことに気づかされる日々。パパ様は回勅の中で次のようにおっしゃっている。「新型コロナウイルス感染症のパンデミックのような世界的な悲劇が、同じ船で航海している世界共同体としての意識を一時的に目覚めさせてくれたことは確かです。…一人で救われるのではなく、ともに救われる道しかないことをわたしたちは思い出しました」（『兄弟の皆さん』32）▲そんな中、新しく大司教を迎えるという朗報が届いた。これまで長きに渡って長崎教区を支えてくださった高見大司教様のご尽力に深く感謝するとともに、今月の着座式をもって、教区のこれからを担ってくださる中村大司教様の船出に、神の恵みが豊かに注がれますように！　（良）

25年前を思い出しながら

被選大司教　ペトロ　中村　倫明

1997年2月5日、長崎県立総合体育館での記念荘厳ミサに先立ち西坂の丘を訪れた教皇特使エドムンド・カシミル・ショーカ枢機卿

皆さん、25年前の2月5日のことを覚えておられますか。まだ、25年前に生まれておられない方は、年配の方々にお尋ねしてみてください。

2月5日は、日本二十六聖人の殉教記念日です。二十六聖人は、1597年に長崎西坂の丘において殉教しました。ですから、25年前すなわち1997年の2月5日は、日本二十六聖人が殉教して400年目でした。

そこで、長崎教区は、その前年1996年の12月8日（聖人たちの旅の始まりとなる京都でまず24人が捕えられた日）を始めに、それからの1年間を「日本二十六聖人殉教400年祭記念期間」と設定しお祝いしました。

1年間のメインテーマを「わたしたちの回心と福音宣教への新しい歩みのために」ということにし、96年12月8日（日）の開会ミサは西坂で午後3時から「殉教者を知る」というサブテーマのもと、26人に扮する信者に登場してもらい、一人ひとりの紹介から始まりました。

殉教記念日1997年2月5日（水）当日は、午後2時から長崎県立総合体育館で「殉教者の生き方を体験すること」というサブテーマのもと、記念荘厳ミサを行いました。

そして、97年12月8日（月）の閉会ミサは、浦上司教座聖堂で午後6時から「殉教者のように生きること」というサブテーマのもと、聖堂内陣に、期間中使用した26本の大ろうそくを立て、ミサ最後には全会衆もそれぞれのカップろうそくに火を灯して新しい歩みへと派遣されていったのです。

中でも2月5日の記念荘厳ミサは、教皇特使ショーカ枢機卿様がおいでくださってのお祝いとなりました。枢機卿様は、長崎を去る前に本紙編集部のインタビューを受けてくださり「とても素晴らしく美しく感動的なミサでした」（カトリック教報 97年4月号「インタビュー 教皇特使ショーカ枢機卿に聞く」）とありがたいお言葉をくださいました。

わたしもあの25年前の荘厳ミサのことを思い出しています。当時、イタリアから帰ってきて間もなかったわたしは、典礼学を学びにいったのではないにもかかわらず、教区の典礼係を仰せつかっていて、殉教400年祭記念の諸ミサ典礼も受け持っていました。

いろんな問題やご意見がありました。特に「殉教祭は殉教したその場の西坂の丘で行わないといけない」という当然のご意見がありました。ところが、日本全国からおいでになるであろう数千人にも及ぶ参列者が予想されました。それに、会場設営等もあらかじめの準備が必要ですし、何よりも雨天の場合が心配でした。そのため長崎市で一番多くの人数を収容できる油木町にある長崎県立総合体育館のメインアリーナが選ばれましたが、それでも参加予想人数を受け入れることができないと考え、日本の各教区に参加人数の制限をさせてもらい、メインアリーナに隣接するサブアリーナにもモニターでミサの様子を映し出すようにしていました。

それでもなお「メインの殉教祭はやはり西坂で」という思いはありましたので、場所は油木町であっても、心では西坂にいるという思いに少しでもなってもらいたくて、西坂の丘にそびえ立つ舟越保武先生作の二十六聖人のレリーフを、大きな写真パネルにしてミサ会場の祭壇のバックに置き、西坂の丘を出現させようとしました。

あの時の祭壇は、典礼部準備委員で話し合い、会場中央に横たわる大きな十字架を模る形での祭壇にさせてもらいました。あの会場でしかできなかった、そして、あの時でしかできなかったであろうものを受け入れてくださったことに感謝しています。それに、あの日、あの時同時に、西坂の丘でもミサが行われたそうです。教区主催での場所へ入ることができなかった方を含めて、その方々やいろんな心を受け止め拾ってくださったことにも感謝いたします。

あれから25年、それに1862年6月8日、教皇ピウス9世によって列聖されてから160年となります。この節目にあたり、25年前ショーカ枢機卿様がわたしたちに残してくださったメッセージをあらためて受け止めていきたいと思います。

「信徒も、福音宣教によって、つまり、ことばと生活のあかしによってキリストをのべ伝え、自分たちの預言職を果たします。…教会の宣教使命は、司教、司祭、助祭、修道者、信徒の皆が力を合わせて、各自の任務と才能にしたがってなされなければなりません」（カトリック教報 97年3月号「荘厳ミサ説教　教皇特使ショーカ枢機卿」）

「福音宣教は、ただ司教たちや司祭たちの責任ではなく、信徒の責任でもあります。一人の司祭の助けもなく二百年間信仰を守り続けた信徒たちは、大きな励みになるはずです」（同 97年4月号「インタビュー 教皇特使ショーカ枢機卿に聞く」）

26人の殉教者のうち、半分以上の17人は信徒でした。

第16回シノドス（世界代表司教会議）に向けての準備が、それぞれの小教区から始まりました。シノドスのテーマは「ともに歩む教会のため－交わり、参加、そして宣教－」です。

全世界的にSDGs（エスディージーズ）「誰一人取り残されない」が叫ばれています。実は教会こそが交わりにおいても、参加においても、宣教においても「誰一人取り残されないし残さない」ところです。

25年前のテーマ「福音宣教への新しい歩み」を、そして今回のシノドスのテーマ「ともに歩む」ことを、誰一人欠けることなく参加し行っていきましょう。

ご存じですか？ 二十六聖人殉教図

長崎大司教館にある『日本二十六聖人殉教図』をご存じですか？

故中田秀和氏（1909～1982、中田ザビエル工房創業者）が手掛けたこの油絵は1959年12月に完成、1982年以降およそ25年間、外海歴史民俗資料館に寄託し展示されていました。その後、「修復の必要」と「より多くの信者の方々に見ていただきたい」という関係者らの思いが合わさって、2008年中田ザビエル工房が油絵を修復し、長崎大司教区に寄贈しました。「父はおそらく、『二十六聖人のことを多くの人に知ってもらいたい』という思いで描いたのではないでしょうか」（中田三穂氏）。特にこの時期、二十六聖人に思いをはせ、私たちもまた人々に伝えていくことができるようにと願います。

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ヨハネ 濱口 知博

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

CALIS Catholic Life Service
カリス通信　2月号
学校法人向け役員賠償責任保険のご紹介

カリスでは、学校法人の役員の皆様が安心して学校経営に従事いただけるよう、役員賠償責任保険（D&O保険）をご案内しています。

＜学校法人における役員訴訟の事例＞
①第三者が役員に対して損害賠償請求を提起した事例
大学の教員が、所属する研究室の教授からの膨大な業務を指示され、長時間労働で過労死した。当該研究室全体が恒常的な長時間労働の環境に置かれていたことを担当役員として認識できていたにも関わらず、それを放置したことが原因。遺族が当該役員の任務懈怠責任を問う損害賠償請求を提起した。
②学校法人が理事に対して損害賠償請求を提起した事例
リスクの高い取引には理事会決議が必要と定められていた学校法人にて、理事数名が理事会の承認を得ずに、デリバティブ取引を行い、学校法人に巨額の損失を生じさせる事案が発生。
当該学校法人が取引に関与した理事に対し、損害賠償請求を提起した。
※上記は事例であり、保険金のお支払いについては保険会社が個別事案ごとに判断いたします。

＜役員賠償責任保険の主な特長＞
①争訟費用を含む費用保険金を幅広く補償いたします
法律上の損害賠償金・争訟費用に加え、法人内調査費用や第三者委員会設置費用、信頼回復広告費用等を幅広く補償いたします。
②法人から役員への賠償請求（法人訴訟）も対象となります
第三者訴訟に加え、一般的なD&O保険では補償対象とならない法人訴訟（法人から役員への損害賠償請求）も標準補償いたします。
③役員退任後の補償も安心です
退任された役員については、契約継続中は補償対象となり、更新がストップした時から10年間の補償延長があります。

本保険は、学校法人の役員の皆様の健全な経営判断および貴法人の更なる発展をサポートするものです。この機会に是非ご検討ください。

※本ご案内は「役員賠償責任保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび役員賠償責任保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。

カトリック共済システム
有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
21-TC07999
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関して お気軽に お問い合わせください

エドガル・ガクタン師（淳心会）
仙台教区司教に任命

教皇フランシスコは昨年12月8日（水）、仙台教区の司教に淳心会のエドガル・ガクタン師（57歳）を任命した（本紙2022年1月号既報）。

叙階式は3月19日（土）午前10時30分から元寺小路教会で、新型コロナウイルス感染防止のため参加者を限定し行われる。司式は菊地 功大司教（東京教区）。式の様子はライブ配信される予定。

略歴　1964年9月23日フィリピン・ルソン島東北部カガヤン州生まれ。86年10月19日初誓願、90年2月来日、91年6月2日終生誓願。92年3月20日助祭叙階（大阪カテドラル）、94年4月23日司祭叙階（フィリピン）。同年5月大阪教区・金剛、三日市教会助任、97～2003年大阪教区・堺ブロック共同宣教司牧。02年社会福祉法人淳心会（堺市）理事長、04～07年カトリック青年労働者連盟（JOC）全国協力者、04～12年淳心会日本管区長、13年サバティカル（フィリピンとアメリカ）。14年1月～17年3月カリタス大船渡ベース長、仙台教区第4地区担当、仙台教区外国人支援センター長、17年4月東京教区・松原教会主任、18年4月学校法人淳心学院（姫路市）理事長、20年7月淳心会アジア管区・日本地区の地区長。

命日を迎え 追悼ミサ
浜口末男司教をしのぶ

昨年末の12月27日（月）、翌日に1年目の命日を迎える故パウロ浜口末男司教の追悼ミサが長崎カトリック神学院聖堂で行われた。

これは、浜口司教が院長の頃、神学生としてお世話になった若手司祭らの呼び掛けによるもの。ミサは中村倫明補佐司教の主司式により、32人の司祭が参加して行われた。

浜口司教と同じ出津小教区出身の川原昭如（あきゆき）師が説教を行い、「最後にお目にかかったのは、亡くなられる4カ月前の8月、その時に入院されるということを聞いた。浜口司教様はもともとあまり自分のことを話すタイプではなく、最後まで病気のことは話されなかった。『人生生きていればいろんなことに遭遇するが、つべこべ言わずにそれを受け入れなさい』という言葉が心に残っている」などと、師への感謝の思いを語った。

浜口司教は2020年12月28日逝去。長崎と高松（派遣）の両教区で司牧し、11年大分教区司教に任命、叙階され、多くの人に慕われ愛された。

浜口司教の逝去後、司教総代理の田口孝志師が大分教区の使徒座管理者を務めていたが、バチカン福音宣教省は1月15日、田口師の重い病状を考慮し、新しい使徒座管理者に同教区事務局長の山下敦師を任命した。

「出会い」の中で導かれ
平戸ザビエル祭

平戸ザビエル祭が昨年12月5日（日）午後2時、新型コロナウイルスの影響下、人数制限をして平戸ザビエル記念教会で行われた。当日は髙見三明大司教を主司式に、中村倫明補佐司教、地区司祭団、地区内の約120人の修道者、信徒が参列した。

ミサの中で大司教は次のように説教し、会衆を促した。

「ザビエルは『出会い』の中で導かれていきました。最初に家族、そしてパリ大学でロヨラのイグナチオに出会い、神への決定的な方向転換をします。マカオではヤジロウと出会い、日本へと導かれました。『出会い』、それも信仰上の出会いが生き方に確信を与え、次の人を導きます。ザビエルに倣い、私たちも信仰に確信を持ち、出会う人に影響を与えましょう」

また感謝式で、髙見大司教のあいさつに続き中村補佐司教が、「ご一緒にミサをささげながら、ザビエルは日本できっと『未来』を見つめていたはずだと考えていました。私たちにとって分かりやすい未来は、今日侍者をしてくれた子どもたちです」と、そう言って司教がかぶる「ズッケ」を子どもにかぶせ、会衆を大いに喜ばせた。

参列者の一人は「信仰の確信を子どもたちに伝え、未来を託したいと思った」と話していた。

帰省者のための黙想会
田平小教区で2年ぶりに実施

田平小教区では毎年1月2日に田平小教区出身の帰省者黙想会を実施している。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止したが、今年は感染対策を施した上で、ここ2週間の行動をチェックシートに記入してもらい、当日の体温を確認して2年ぶりに実施した。

今年の参加者は例年の半分で16人。主任司祭が講師を務め、参加者は昨年7月に没後100年を迎えた「マトラ神父様」の平戸地区での功績について学んだ。特に日本の教会が信仰の自由を得た後、次々に手掛けられた平戸地区内の聖堂建設と、福祉事業の先駆けである「田崎愛苦会」の設立と発展について、参加者のほとんどが初めて知ったようだった。

マトラ神父（J.F.Matrat）は司祭になり、日本に渡ってから一度も故国に帰らず、平戸に骨を埋めた。聖堂建設も愛苦会設立も、本人の熱意だけでは完成せず、協力者、理解者を幅広く得ていった。愛に根ざした宣教の思いを、私たちももう一度学び、見倣っていきたい。

（田平小教区）

会計に関する審議など
教区顧問会 行われる

教区顧問会が昨年12月14日（火）、大司教館で開催された。

主な審議事項は次の通り。まず、特別会計規程の制定・改定に関する件が審議された。審議の結果、「財政調整基金特別会計規程」「大浦天主堂保存委員会特別会計規程」「収益事業特別会計規程」の制定と「資金運用規程」の改定が承認された。これによって分かりづらかった会計収支の流れが整理された。次に、八幡町教会から旧八幡町修道院建物解体の承認申請が顧問会に提出され、審議の結果、承認された。さらに、「バチカンと日本100年プロジェクト」（事務局＝角川文化振興財団）クラウドファンディングに関するパンフレットの配布承認申請があり、各教会への配布が了承された。

報告事項として、世界代表司教会議（シノドス）に向けた「特別教区シノドス」について進捗状況の報告と確認、昨年11月24日に実施されたローマ教皇来訪記念碑除幕式に関する報告、2022年度から福岡コレジオが福岡カトリック神学院に移転することの決定、司祭研修会の確認や教区施設統廃合検討チームからの意見公募の報告などがあった。

2021年度
第2回臨時司教総会

日本カトリック司教協議会は昨年12月9日（木）東京・日本カトリック会館で2021年度の第2回臨時司教総会を開き、司教、補佐司教、修道会・宣教会の代表者らが参加した。

主な報告事項は次の通り。▼第16回通常シノドス（世界代表司教会議）の回答締め切り延期を受けて司教協議会の準備日程を変更し、教区からの意見提出締め切りを22年6月4日とし、日本の教会としての提出文書は7月の臨時司教総会で検討する。▼「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドライン」を、教皇庁のテンプレートに沿って若干修正した。ガイドラインは近々、中央協議会ウェブサイトで公表される。▼2022年司教協議会年間活動方針を以下のように確定した。①福音宣教を推進する。②新しいミサ典礼書の発行に向け典礼委員会や出版部と協力する。③教皇訪日におけるメッセージの浸透と具体的活動を図る。④災害や事故の犠牲者・被災者をはじめ、助けを必要とする人を支援する。⑤平和といのちを守る。⑥国際的イベントに協力し、社会の福音化を推進する。⑦中央協議会の運営および業務遂行。

審議では、教皇訪日準備特別司教委員会と教皇訪日準備室の解散が諮られ承認された。

カトリック病院としていのちを大切にする取り組み 第4回

長崎市にある聖フランシスコ病院は、2019年に聖フランシスコ病院修道女会から長崎大司教区へ、その役割と病院理念が引き継がれたカトリックの病院です。「身体的にはもちろん、心的、霊的にも、〝神さまから与えられたいのちを大切にする〟ことを目指し、取り組んでいます（代表役員）」。同病院を広く知っていただくための連載・第4回は、フランシスコ訪問看護ステーション所長とフランシスコ ケアプランセンター長による紹介です。

在宅医療に取り組みます
フランシスコ訪問看護ステーション
所長　本多 啓子

フランシスコ訪問看護ステーションは、1996年4月に開設され、今年で26年目を迎えました。

主に浦上周辺にお住まいの方のご自宅を訪問し、お一人お一人に必要な看護を提供しています。体温や血圧を測定し体調に変化がないかを確認し、医療処置や療養生活に必要な支援を行います。病気を抱えながらの生活は、いろいろ不安も大きいと思いますが、そんな時に何かお役に立てればと思っています。「私たちはともにいます～あなたのよき理解者として～」というのが、私たちの掲げている理念で、この言葉を胸に毎日利用者様宅を訪問しています。

2025年、団塊の世代が75歳となり、超高齢社会が訪れます。医療費や介護費の増大が深刻化してくることが予想され、日本の医療制度は今後ますます厳しいものになるでしょう。病院に入院できず、在宅で闘病する方も増えてくると思われます。訪問看護師にも高度な医療技術が求められますが、どのようなニーズにも対応できるような質の高い看護が提供できるよう、今後ますます努力してまいります。

訪問看護のご利用を希望される場合は、担当ケアマネジャーや当院の地域連携科、また包括支援センターなどにご相談ください。

キリストの愛の精神に基づいて
フランシスコ ケアプランセンター
センター長　水本 憲治

在宅療養生活を送る上では、在宅医療だけでなく、いろいろな介護サービスや社会資源などを組み合わせて利用することが必要になります。在宅療養生活を円滑に行うためにはケアマネジャー（介護支援専門員）が大きな役割を担うといわれています。

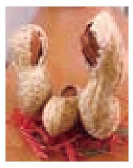
ケアマネジャーの主な業務としましては、介護保険制度において介護を必要とされる方のために、ケアプラン（居宅サービス計画）の作成や介護サービス（ヘルパーやデイサービスや訪問看護等）の調整・管理を行います。現在、フランシスコ ケアプランセンターではケアマネジャー3人体制でさまざまなケースに対応しています。当事業所の基本姿勢として、キリストの愛の精神に基づき、利用者様の話しを傾聴し寄り添い、利用者様やご家族が望む生活が送れるように支援を行うことを心がけています。

また、当事業所は聖フランシスコ病院からの依頼が多く、利用者様の疾患もさまざまですが、終末期の方や透析治療が必要な方が多いのも特徴の一つです。そういった方々がご自宅で安心して生活できるよう、聖フランシスコ病院・フランシスコ訪問看護ステーション・フランシスコ ケアプランセンターが連携し在宅生活のお手伝いをさせていただいています。

在宅生活でのお困り事等がありましたらいつでもご相談ください。

馬小屋を飾り主の降誕を祝う

ベトナム人共同体のミサ



▲落花生の聖家族

現在、長崎教区では毎月第4日曜日にベトナム語ミサが諫早教会で行われ、長崎各地から人々が参列している。また、島原半島には多くのベトナム人信徒が働いており、毎年、島原教会で主の降誕ミサがささげられている。

昨年の主の降誕ミサは、サレジオ修道会のベトナム人司祭、春山ミカエル・ラップ師が訪れ、12月12日（日）午後に島原教会でささげられた。今回はベトナム風の馬小屋（写真）を青年たちが準備。夜にはサレジオ修道会管轄である愛野教会でも馬小屋を飾り、祝うことができた。

12月26日（日）聖家族の祝日には長崎地区の信者が水主町教会に集い、降誕ミサが行われた。こちらではベトナム人司祭の司式の都合がつかず、同教会主任司祭が日本語でミサを司式し、聖歌や共同祈願、説教をSr.ヤニーナ（けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会）の通訳を交えるなど工夫して行われた。

今後、長崎教区ではベトナム人共同体のためにベトナム人司祭が来崎する予定。国籍を超えて日本人信徒との交流が深まることが望まれる。

純心聖母会

第14回定期総会

6年ごとに開催される純心聖母会の総会は、例年8月に行われていたが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響下にあって県外からの代議員の移動が危ぶまれた。そこで、苦渋の結果、聖座の許可を得てオンライン総会が2021年12月19日・24日～31日まで開催された。選出された本部役員は次の通り。

総長　木村美由紀
総顧問・副総長　松下みどり
総顧問　赤窄千香子
　山田房恵
　坂本久美子

青年とシスター、司祭が交流

第1回下五島地区青年の集い

第1回下五島地区青年の集いが昨年11月14日（日）14時から五島市民体育館で行われ、青年4人、シスター6人、司祭6人の計16人が集まった。

ソフトバレーで親睦を深め、最後はシスター方のリードで〝テゼの祈り〟を行った。生まれて初めてバレーをするベトナムの青年もいて、互いに声を掛け合いながら、温かく交流するソフトバレーとなった。

参加した司祭の一人は、「若い皆さんなので適応も早く、最後の試合はラリーが続くハイレベルな試合となりました。青年たちの笑顔を見ることができて、司祭団もシスター方も、青年たちへのサポートを惜しみなくやっていこうとあらためて心に刻んだことと思います。また、青年たちは慣れない〝テゼの祈り〟でしたが、シスターたちの祈りの雰囲気に引っ張られて、祈ることとの大事さも再確認できたと思います。互いに祈り合いながら、また集まれる日を楽しみにしています」と話していた。

短信

〈堅信式〉

1月9日（日）9時30分から浦上教会で堅信式が行われ、中学生16人と大人4人の計20人が堅信のお恵みを受けた。

〈コロナ感染防止の対応〉

1月上旬から全国的に急拡大してきた新型コロナウイルス。長崎県では1月13日以降、新規感染者が過去最多を更新し、中村法道知事は県独自の「警戒警報」（同日）や「特別警戒警報」（1月18日）を発令。長崎教区は1月14日に「主日ミサの参加義務の免除」を2月20日まで継続するとした。

その後、1月21日から2月13日まで長崎県に「まん延防止等重点措置」（対象区域・長崎市、佐世保市）が適用されることとなり、これを受けて教区は、適用期間中の長崎地区と佐世保地区の主日の公開ミサを中止すると発表した（1月20日付）。

感謝

—香典返し—

長崎カトリック神学院
●深堀幾代様（浦上）
故ヨゼフ深堀則夫様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

みことばにふれて 188

鼈甲屋（べっこうや） 賢治 神父
（長崎教区司祭、浦上教会）

「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい」（マタイ2・13）

「逃げるは恥だが役に立つ」略称「逃げ恥」と呼ばれたドラマが流行（はや）ったのは、2016年でした。2021年は、コロナ禍もあってか、暗いニュースがまだまだ続く世の中において、そんなコロナ禍だからこそか、マスコミの執拗な取材をかいくぐり、あるいは、その網を逃れて、ビッグネームの結婚も多かったのかもしれません。年末年始にも著名人の結婚報告がありました。星野源さんと新垣結衣さんの結婚も私の中ではそうでした。ドラマに見はまっていたからこそ、実際に夫婦になればお似合いなのではないかと、勝手に想像していました。

「一月行く二月逃げる三月去る」、二月は逃げるようにあっという間に過ぎ去ると、昔から言われていますが、不当な大変なことから避難することは、なにも恥ずかしいことではありません。カトリックの信仰においても、ただ、じっと耐え忍ぶだけが信仰ではないはずです。旧約におけるエジプトからの避難も、新約における聖家族のエジプトへの避難も、恥ずかしいことではなく、救いの営みにおいて、必要不可欠なものでした。

「夫婦を超えていけ。二人で超えていけ。一人を超えていけ」。星野源さんの「恋」の中で歌われている二人は既に結婚しています。夫婦は子どもを得ることで家族となり、夫婦という形を、二人ではなく文字通り超えていきます。独りであると感じている人にも「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」方が共にいることを実感することができたなら、一人を超えていけるのです。

つらいいじめや、非常識を当たり前とするような雇用条件、暴力による家庭での支配などなど、それらを避けることはまっとうな訴えです。あなたの命を大切にしてください。

もちろん、逃げてばかりでは、事態は好転しないことのほうが多いかもしれません。いつかは困難とも向き合わないといけない時もあります。その際には、共にいてくださる神に励まされながら立ち向かうことができることを願っています。すいません。言い訳ばかりで逃げてばかりいる私自身に対する、慰めではなく戒めです。

アンテーラ 樽角ツヨ子修道女（純心聖母会）

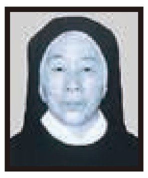
昨年11月30日、平田クリニックで逝去。81歳。

1940年五島市生まれ。64年初誓願、73年終生誓願。初誓願後、幼稚園教諭として長崎、広島、東京、埼玉など幼児教育の場で子どもたち、保護者、教会との関わりの中で宣教に励んだ。

特に浦和の学校法人聖フランシスコ学園聖フランソア幼稚園では15年間、園長として、院長として、職場でも共同体でも温かい配慮で人々と関わり、親しまれ信頼される存在だった。2009年にがんの診断を受け入院したが体調が落ち着き、幼稚園で継続して働いた。12年長崎のマダレナ修道院に派遣。几帳面で会の記録の整理など、奉仕の務めを誠実に果たしていた。

21年ロザリオの聖母修道院に派遣され療養を続け、10月に入院し痛みや苦しみを十字架のキリストと共にささげていた。

マリア・グレゴリア 山崎フジヱ修道女（純心聖母会）



昨年12月3日、聖フランシスコ病院で逝去。90歳。

1931年長崎市生まれ。54年初誓願、63年終生誓願。戦後の貧しさの中で修道会や学園復興のための重労働など若いパワーで会を支え、初誓願後は印刷工場での業務にも携わった。

58年からは保育園で園児のため、68年からは福祉施設の高齢者のため、おいしい食事に心を込めた。やさしい穏やかな笑顔は周りの人々に安らぎや喜びを与えた。72年からは鹿児島、東京の純心学園で、中高生や短大の寮生と修道院のために調理主任として、心身の健康に配慮しおいしい料理を提供した。加齢とともに体調を崩し、2015年長崎のロザリオの聖母修道院へ派遣され療養していた。

昨年11月30日に急性心筋梗塞のため救急入院し、3日後に「神様、ただ感謝だけです」との言葉を残して静かに御父のみもとに召された。

マリア 鳥瀬スヤノさん（鳥瀬文武師の母）

昨年12月29日急性大動脈瘤解離のため逝去。93歳。

1928年平戸で生まれ、戦前は台湾で育ち、結婚後は7人（長男は幼くして亡くなる）の子どもを産み、育てた。夫が出稼ぎに行っている間は一人二役で苦労しながら、子どもたちをしつけ、信仰教育を行った。その子どもたちの中から1人を司祭に、2人を修道者にささげた。

話し好きで、教会や家庭のことを一生懸命にする人だった。また子どもたちのことを一番に考え、節約しながら子どもたちが困っていないかをいつも考える人だった。晩年は軽度の認知症を患っていたが、リハビリに励み、毎年正月に子どもたちが帰省するのを楽しみにしていた。その矢先、母として信徒としての93年の生涯を終えた。

葬儀ミサは12月31日上神崎教会で、中村倫明被選大司教と十数人の司祭団が参列し、行われた。

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

心に健康と安らぎを！
原口カウンセリングルーム
ヨハネ 原口 芳博（公認心理師・臨床心理士）
福岡カトリック神学院非常勤講師
長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目11-2
☎ 090-6639-6848
E-mail: haraguchicr@hcr2017.org
【完全予約制】月曜日～土曜日 10:00～19:00
電話・オンライン・訪問によるカウンセリング・教職員研修も承ります。
詳しくはホームページをご覧ください。

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン 水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL（095）㈹847－7151
844－1420